

(様式3)

会議の開催結果について

1 会議名	令和7年度第1回 河内長野市社会教育委員会議及び公民館運営審議会
2 開催日時	令和7年7月15日(火) 午後2時～午後4時
3 開催場所	市民交流センター 中会議室
4 会議の概要	(1) 公民館に係る令和6年度事業実績と令和7年度実施状況について (2) 市民大学くろまる塾に係る令和6年度事業実績と令和7年度実施状況について (3) その他報告
5 公開・非公開の別 (理由)	公開
6 傍聴人数	0人
7 問い合わせ先	(担当課名) 教育委員会事務局教育推進部 社会教育第1課 (内線 8221-314)
8 その他	

*同一の会議が1週間以内に複数回開催された場合は、まとめて記入できるものとする。

令和7年度第1回河内長野市社会教育委員会議及び公民館運営審議会 会議録

日 時：令和7年7月15日（火）午後2時～4時

会 場：市民交流センター中会議室

出席者：委 員：大谷議長、上嶋副議長、小滝委員、藤原委員、井之上委員、本道委員、
加藤委員、吉田委員、尾谷委員、住田委員、中道委員、杉本委員

事務局：小川教育長、尾西教育推進部長、生田教育推進部理事、濱田社会教育第1課長、山本社会教育第2課長、太田社会教育第2課参事、澤社会教育第1課長補佐、山本青少年育成グループ長、花井社会教育グループ長、浦市民交流センター長、四位副主査、松尾

（事務局）

社会教育委員の構成について、令和7年4月の本市機構改革に伴い、文化振興に係る事業、及びスポーツ振興に係る事業の所管が教育委員会から離れ、市長部局に移行された。これに伴い、担当は成長戦略部文化・スポーツ活性課となる。文化・スポーツ活性課が所管する団体である河内長野市文化連盟、及び、河内長野市総合スポーツ振興会、それぞれから選出された社会教育委員の菊伊祇委員、島田委員について、今回辞任する運びとなった旨の報告。

（事務局）

河内長野市社会教育委員会議規則第9条及び公民館運営審議会規則第7条の規定により、在任委員の半数6名以上の出席が必要。12名の出席により、本会議が成立したことの報告。

1. 委嘱状の交付

新規委員2名。前任の残り1年間の任期。小滝委員・井之上委員への交付。

2. 開会あいさつ

小川教育長あいさつ。

－議長・副議長の選出－

3. 案件（1）公民館に係る令和6年度事業実績と令和7年度実施状況について

（事務局）

－資料1に従って説明－

(大谷議長)

それでは、委員の皆様からご意見を頂戴します。

(尾谷委員)

評価基準のことなのですが、客観的評価ということで、我々が評価する評価をどう表すのでしょうか。A B C Dとか、○×△とか、その評価基準がないと羅列の話になって、まとまりがない結果になりませんか。

それと、8公民館を今(評価する)というのはしんどいのではないのでしょうか。評価基準が、数値でないので、余計難しいと思いますね。

(大谷議長)

A B C Dでも1、2、3、4でも、数値化していただいて、皆さんが一致するところはどこなのかというところが探りやすいようにしていただいたらよいかと思います。

内容についてのご質問とかでも構いません。これは優れている。いい取り組みだというのがあれば、それをおっしゃっていただいてもいいのですが。

(大谷議長)

加賀田は、まちづくり協議会はないのでしょうか。だからこそ、社会教育は何をすればいいのかということ、考えてくださったものがその目的とあっているのかどうかとか、成果に繋がっているのかというところが評価のポイントではないかと思います。今後、まちづくりという点で関わっていかうという考えですか。

(事務局)

今は加賀田公民館の利用者が主体的に、動き出して、いろいろ企画をしてくれているという、本当に初歩の初歩の段階です。みんなで何かやりましょうという段階から、例えば今年度に関しては、公民館が複合化する加賀田小学校の方に、公民館利用者が出向いて、子どもたちとふれ合うみたいなどころまで考えています。ただ、もう少しその先と言いますか、まちづくり担当部署と連携してやればいいのかという思いはあるのですが、まだ途上の段階です。

(大谷議長)

公民館と学校が同じ敷地にできるということは、コミュニティづくりをするためのチャンスの時期に来ているわけだから、これを、生かした公民館活動というのは大事だと思います。

(杉本委員)

先ほどの客観的評価というところで、ABCとかつけたらいいという意見を聞かせていただいて、以前に申し上げたと思いますが、評価と評定は違うという発想で考えていくことが必要なのではないのでしょうか。学校がつける5, 4, 3, 2, 1の評定についても、今、変革をしようという流れにあります。5, 4, 3, 2, 1というのは、客観的評価ではなくて、それは評定であり、あまり意味がないのではないかということが今議論されています。評価とは課題を見つけ出して次にどうしていくかというものであって、PDCAサイクルをまわしていくための評価なんですね。まずは、自己評価をしてもらって、気が付かないところもあるので、そこを我々は客観的な評価として指摘する。そういう狙いがあるって、評価を変えていただいた経緯があります。今後の課題といったところに記述されている内容を妥当かどうか指摘できればいいのではと思っています。

(尾谷委員)

おっしゃる意味はわかりました。ただ、評価をするに当たって、事業の説明をしていたかないと、我々も客観的評価ができないと思います。目標はどれだけで、目標に対して、自己評価は4段階であるという説明があれば、わかりやすいと思います。

(中道委員)

今、これだけメンバーがいますので、グループで分担して、各公民館に関して、集中的に見て、その後、この場に上げて、みんなで考えるという方法でないちょっと広すぎて、時間がどれだけあっても足りない気がします。効率的に、皆さんがご意見を出していけるようなやり方を決めていただいて、またそのためのシートなんかもあると書きやすいし、考えやすいのではと思います。次の課題としていただき、今回は杉本先生が仰ったみたいに、今後の課題のところが非常に重要ですので、この時間内で見ることができる範囲で、質問すべきことはさせていただき、もっと良くするために何が私たちに言えるか、提案できるかということがここで求められていることだと思うので、集中的に皆さんに言うてもらおう場に今回はしてはどうでしょうか。ワークシートがないので、評価のやり方は後ほど、改めて確認していただくとして、まずはみんなで、意見を言えたらいいのではないかと私は思いました。

(大谷議長)

今回はそちらの方向で進めてよろしいですか。

(事務局)

貴重なご意見ありがとうございます。

確かに杉本先生のおっしゃっていたように、もともとの評定を評価という形で、中身の方を重視して、このような形になったと私も聞いております。

ただ、中道先生がおっしゃったように、資料1のシートだけをぱっと出されて、意見を出してと言われると、確かに皆さんも戸惑われるところがあるかと思いますが、いただきました意見を踏まえ、次回につきましては、もう少し意見を皆さんが出しやすいような形、考えてみたいと思っております。貴重なご意見、ありがとうございました。

(大谷議長)

それでは、今回は千代田公民館のコミュニティの仲間づくりに絞って質問したり、課題をステップアップするアイデアを出してもらう時間としていいでしょうか。

(事務局)

お願いいたします。

(大谷議長)

それでは皆さん、千代田公民館に絞って、ご意見などありませんか。

(吉田委員)

公民館の掲示についてですが、公民館まつりで中学生に展示物を作ってもらって掲示するだけではなく、実際に当日来てもらって交流するような取り組みはなかったのでしょうか。

(事務局)

令和6年度は展示だけでした。

(吉田委員)

防災センターの見学など(中学生が参加の公民館企画事業)感想をまとめて公民館で展示されていますが、例えば公民館まつりで、中学生が来て、やったことの報告とか、そういうことはされてはいないのでしょうか。公民館まつりで、展示の説明などしてもらったら、交流も生まれるのではと思います。

(事務局)

ありがとうございます。

(中道委員)

中学生が主体的にというところが重要だと思います。とにかく子どもたちをお客さんにして、何かしてもらおうと待っているだけの子どもたちを育ててはだめなので、子どもたちに投げかけて、子どもたちにアイデアを出してもらって、どこでどんなことだったら楽

しくできる？という、子どもたちを巻き込む千代田モデルのようなものができたら、成功例として他の公民館にも広がればいいなと思います。また、学校も新しい学習指導要領に求められている社会に開かれた教育について、学校ではなかなか体験ができないという状態を、公民館との協力で乗り越えてほしいなと思います。この気づきが非常に重要なので、ぜひ目標を具体化することを考えていただきたいなと思います。

(大谷議長)

社会に開かれた教育活動として、紙ベースの展示だけでなく、子どもが人と触れ合うというアイデアが出ましたので、検討材料としてほしいと思います。また、公民館だけではなく、社会のいろいろな場面で教えていただくことも社会教育として重要と思います。

では、学校の立場からどうでしょうか。

(小滝委員)

三日市小学校では、子どもたちの公民館見学を三日市公民館で受け入れてもらっています。公民館長さんから話を聞いて、地域のことを知っていくきっかけにもなっています。館長さんにはCSにも入ってもらっており、今後、より小学生も公民館と関わっていければと思います。

(藤原委員)

長野高等学校も千代田公民館の館長さんからお誘いがあり、公民館のイベントに図書好きな生徒が数名参加しました。引き続き交流ができればいいと思います。

(大谷議長)

P T Aに関わっておられる立場からはいかがですか。

(井之上委員)

個人的な話ですが、先日、三日市公民館の運営委員会に参加しました。公民館の場所は知ってはいたものに入る機会がありませんでした。でも、近所の子どもたちも図書室に行ったり、夏休みの子ども体験教室などに参加するなどしており、注目しています。公民館のイメージというと、ふだん活動されている人の場所というイメージがあって、行くという感じにならなかったのですが、防災教室に取り組んだりされていて、ニュースでは知ることができない話を聞けるいい機会だと思います。子どもたちも放課後などで行くきっかけがあれば、交流も生まれるかなと思います。

(大谷議長)

各公民館色々な特色を打ち出しているのでも、決まった人が使うところと思われる人

たちが行きやすいきっかけづくりが重要かもしれないですね。

今後も深めて、みんなで考えさせていただきたいと思いますので、今後の課題としたいと思います。

3. 案件（2）市民大学くろまる塾に係る令和6年度事業実績と令和7年度実施状況について

（事務局）

－資料2に基づいて説明－

（大谷議長）

塾生同士の交流ができていないという話がありましたが、できるようにする工夫はされたのでしょうか。

（事務局）

過去には、塾生同士の交流もあったようですが、希望されるのは講座形式での受講が多く、最近はできておりません。

（大谷議長）

高齢の方に人気の講座は対面の講座が多いが、この形式は残ってしゃべるのは難しい。話を聞いて自分で学んで帰ってしまう。そうすると、先に説明であったような仕掛けが重要だと思います。高齢者は免許返納する人もいて、キックスは遠くなる。（市が）タクシー券を出してくれたりもするが、利用回数など限られる中で、受講の足が遠のいている人もいるのではと思います。こうして受講者が減る中で、プログラミング講座のように、子どもたち、親子で参加し、抽選しないといけないくらいの講座も打ち出して行って、高齢者も楽しめる講座も残しつつ、子どもたちや学生向けも含めた講座も検討していくのもありだと思います。もっと多世代にアピールして行ってはどうでしょうか。

（井之上委員）

小さい子を抱えていると、関心を持った講座があっても、預け先がないと、まっいいかとなってしまいます。預かる場所があったり、子どもだけで参加できる講座も併せて開催されていればと思います。

（中道委員）

くろまる塾をどうしていきたいのでしょうか。市民カレッジの位置づけだと思いますが、広く浅くではなく、垂直方向も考える必要があるのではないのでしょうか。次はどう展開し

たいのか。クラブ化する方法もあります。集まってさらに深め、仲間を増やす。公民館のスタッフもそうですが、くろまる塾もどんな風にしたいか見えるようにしないといけないと思います。様々な世代が参加しやすい仕掛け、子どもの保育もそうだが、ターゲットとしている世代に配慮が必要かと思います。働いている世代を対象とした講座を平日の昼間にするというのにはあり得ないように、保育を設定することで、子どもたちも体験でき、親も講座に参加し、母も子も行きたいとなるのではないのでしょうか。図書館と連携するというのもありだと思います。SNSの講座もあったが、市民ニーズを細かく拾って、どうしたらいいんだろうという疑問に応える講座にしてほしいです。学んだ方のグループ化を進め、教える側に回り、学びを深め合う。費用をかけずに学びを深める。中学生が高齢者に SNS を教える教室などもいいと思います。中学生の地域貢献にもなります。

(大谷議長)

いろんなところとコラボして学んで教える循環ができたらいいですね。

(尾谷委員)

公民館は講座で保育があったりしますか。

(事務局)

あります。

(尾谷委員)

くろまる塾は、当初は学士が次の講師をすることを目的としていたと理解しています。学んだことを博士号まで取得した方もいるが、活かしていないのではないのでしょうか。

(事務局)

我々の方でそこまで活かし切れていないというのはあると思います。

(大谷議長)

講師までではなくとも、くろまる塾をサポートできる、学んだことを伝える中間層のような人ができたらいいですね。

(尾谷委員)

満足度の測り方はどうなっていますか。

(事務局)

アンケートで回答された方の中で、大変満足したと回答された方の割合です。

(本道委員)

講座が終わったら、その後のつながりを求めている、話したいという人もたくさんいるのではないのでしょうか。ただ、駐車場が2時間まで無料のため、余韻を楽しむ雰囲気なく、皆さんせわしなく帰られる。そうなると、講座に飛びつかない、なんとなくハードルが高く感じられてしまいます。公民館の講座も遠く、学校の部屋などを使って、臨時の公民館講座を開くなどしてもらえたらと思います。

(住田委員)

保護者の方など、どんなことなら興味があって、行きたいと思うかアンケートを採ってプランニングしてはどうでしょうか。

(加藤委員)

千代田校区で健全育成会として、バラエティフェスタやデイキャンプなど開催しています。日本も世界も暑くなっていく中で、スタッフの安全にも配慮しつつ、人命救急に関するイベントも行っています。煙ハウスなど子どもも喜ぶし、また健全育成会で行っているイベントには中学生や高校生も参加してくれています。親も来てくれ、ボランティアをするなど、地域の交流が生まれています。

(大谷議長)

公民館やキックスは入れものであって、やっていることは地域でも体験し学べる場所があるということですね。ご紹介ありがとうございます。

(杉本委員)

一つわからないことがあります。くろまる塾の講座の講師はどなたが決めているのでしょうか。

(事務局)

事務局の職員が考えたり、くろまる塾のボランティアに意見を聞いて決めています。

(杉本委員)

くろまる塾も運営など受講者にまかせるべきではないのでしょうか。企画運営委員会を立ち上げるなど考えてもいいと思います。こうすることで、企画力が問われ、主催者に回ることによって勉強になる。主催者と受講者の双方向性が重要で、双方が学びになる形にしないと継続しないのではないのでしょうか。あと、くろまる塾の分析についての意味がよくわかりません。参加者を増やすことを目的とした分析になっていて、そのことについて再考した方がいいと思います。きっかけづくりは行政でも、あとは市民に任せる。そうでないと社

会教育といえないのではないのでしょうか。

(中道委員)

子どももそうですが、任せられると育ちませんか。地域の大人が見守りつつ任せる。それが文科省が求めているものかと思うので、あとはそれをどう展開するかだと思います。

(事務局)

貴重なご意見、ありがとうございます。

本市教育委員会においても、学校教育の場で主体的な学びということがテーマとなり、他市の事例も視察するなどしています。社会教育においても、生涯学習のまちづくりを当時の市長が掲げ、くろまる塾を立ち上げ、学んだ成果を地域に入って活かすということを目指して取り組んだのですが、受講された方々の学びはどんどん深まっていくものの、どうつなげていくかその活かし方を考える段階になっています。昨年、学位授与を市長室で行い、市長からも博士の上を考えてはどうか、つまり次の役割を考えてはという話がありました。市民が主体的に取り組むこと、これは非常に大事と考えています。また、先ほど保育の話がありました。市長部局の方になります成長戦略局にシティブロモーション課という課が設けられ、本市をどうプロモーションするかに取り組んでいますが、消滅可能都市として本市が挙げられている中、若い世代が特に女性が定着しないことがその一因と考えられます。若い世代のニーズを把握し、取り組むことが求められます。ただ、先ほど市民交流センター長に聞きましたが、高齢化の影響か、保育ルームのニーズがないとのことでした。一方、先ほど、別の事業とタイアップしてはというヒントをいただき、なるほどと思いました。河内長野駅前にあいつくがありますが、就学前の子どもを対象としており、就学後の子どもが使えません。しかし、桃山学院大学の杉本先生にご協力いただき、ホールにて小学生向けのおはなし会を実施することで、タイアップによる相乗効果を狙って、8月ぐらいから実施の予定です。

皆様のご意見につきまして、参考にさせていただきたいと思います。ありがとうございます。

(大谷議長)

1つでも2つでも実現できたら、次のステップに進んでいけるし、参加する人も増えてくるし、意識も変わってくると思います。

(上島副議長)

くろまる塾の副学長をしているのですが、元々、保護司という立場から関わっていました。市民に実行委員になってもらうというのは新しい発想でいいことだと思います。機会があれば今後、私からも発言したいと思います。

(大谷議長)

検討する案件は以上です。次に報告事項に移ります。

令和7年度文化財関連事業について、事務局から報告をお願いします。

4. 報告事項

- ・令和7年度の文化財関連事業について

内容：市指定文化財旧梶谷家住宅の葺き替え、万博の出展など

(事務局)

－資料3について説明－

(大谷議長)

事前に予約が必要でしょうか。

(事務局)

予約は必要ありません。

・東京大学先端科学技術研究センターと大阪府立長野高等学校の連携ワークショップについて

(事務局)

資料に基づいて、河内長野市役所と先端研の連携に至った経緯を報告。

(藤原委員)

長野高等学校と先端研との取り組み（探求の学び）の状況について説明。

(大谷議長)

長野高校の学生の学び方を知る機会にもなるので、今度開催予定の発表には委員の皆様も見学に行っていたらと思います。探求学習について我々の学びにもなるかと思えます。本日の議題は以上となります。

- ・その他

(事務局)

和歌山市で開催される社会教育研究大会参加予定者について報告

(大谷議長)

以上を持ちまして、本日の社会教育委員会議及び公民館運営審議会を終わります。

公民館に係る令和6年度事業実績に対する評価について

資料1

館名	社会教育課題	①(設定)問題意識/目的	講座名	内容	回数	②(手段)どのように内容を伝えたか	③(成果)今後の課題
川上	健康	川上地区は高齢化が進んでいる。住民各々が自立して健康であることが、高齢化への効果的な対策の1つである。そのための方法を仲間とともに学んでいく。	人生100年時代～未来のための健康プロジェクト～	睡眠・体操・料理・腸活等のテーマから健康についての座学と実践	5回	座学での講義に加え、料理・フラップ体操などの実践を行った。	参加者のアンケートから、講座を通して健康管理に対する知見が深まったという声も多く、また、講師に地域の方を招いたことでその方を通じた参加者同士のつながりも生まれた。ただ、目的があいまいでもあるため、再検討していく必要がある。
加賀田	コミュニティ・仲間づくり	加賀田地区には地域まちづくり協議会がなく、災害時等に備え、地域住民のつながりづくりが喫緊の課題。地域のつながりを強化する。	市民企画講座「わくわく会議」	公民館職員がファシリテーターとなり、市民が主体的に講座参画をする河内長野市立公民館初の「市民企画講座」。加賀田地区の住民が地域住民を対象にした催しを主体的に企画・運営する。	7回	企画会議4回、講座3回。「歌声喫茶とおしゃべりサロン」、「畑の作物で防災食作り」、「地域ウォーキング」を公民館職員がサポートしながら、参加者が催しの準備、告知、当日運営まで全て実施した。	地域のつながり作りは出来ており、運営3年目を迎え、公民館職員よりも参加者が主体的に活動を行える状況になってきた。継続した活動も行えている。公民館を越えて地域とどうつながっていくかが課題。
高向	郷土・伝統・文化	地元施設の認知度を高め、ふるさとの魅力や地元への愛着心の喚起につなげる。歴史や地理、教育や産業など様々な河内長野の姿について、楽しく学ぶ機会とする。	高向の地域学・ふるさと歴史講座	文化課などと連携した6回シリーズ。地域の特徴ある場所や文化について学ぶ。	6回	地域の方、役所の関係者、有識者など様々な人を講師に招き、また河内長野歳時記の資料も活用して座学、現地見学などを行った。	座学と体験を組み合わせ、新規の受講者も獲得している。公民館認知度の向上や愛着心の喚起につながっている。次の展開をどう考えるかが課題。
千代田	コミュニティ・仲間づくり	公民館利用者の高齢化・固定化が課題。市内で特に児童・生徒数の多い千代田地区には徒歩圏内に小中高校がある。学校との連携を行い、公民館の認知度を高め、若者の利用者増加を促進することで、多世代が集う公民館づくりを目指す。	千代田中学校連携講座	千代田中学校と公民館が協力して講座の企画・運営を行う。	3回	防災センターや観心寺を訪問し、感想をまとめて公民館で掲示。また、「あきちスペース」の夏祭りや陶芸体験で公民館利用者との交流も行った。	活動2年目となって、一番の成果は学校の先生方への認知が高まり、協力体制が出来てきた事。今後、より中学生が主体的に関われる内容や仕組みづくりが課題。
三日市	安全・安心	能登半島地震を契機に市民の防災意識が高まっており、防災への備えを促し、防災意識向上を図る。	防災連続講座	阪神淡路大震災の当事者と気象台職員の話から、教訓や専門的な知識を学ぶとともに、個人・地域でできる備えについて考える。	2回	神戸市から震災の語り部、また大阪管区気象台の方から、体験談や情報活用の具体例等を学んだ。	アンケート結果からも、参加者の防災意識が高まったことはわかる。座学のみになっていること、防災に関心の低い人達をどう巻き込むかが課題。
天見	家庭教育・子育て	親子関係の希薄化という社会課題にアプローチ。親子の絆を深める場の提供を行う。	高野山大学連携 親子体験講座	高野山大学教員を講師に、親子で楽しむ講座を実施。	1回	令和5年度に台風で中止となった自然観察を実施。当初予定のあった外国人親子とのモルック体験は天見にぎわいフェスタで形を変えて実施。	多数の親子が訪れ、参加者の評価も高く、場の提供と絆を深めるという点では一定の成果があった。高野山大学が河内長野市から撤退するため、地域の大学との連携という面で新たな方法を考えていく必要がある。
天野	人権	普段の生活中では考える機会が少ないと思われる人権問題に関して、身近なこととして考えるきっかけを作る。自分に何ができるか見つけ出して行動する力を養う。	天野の人権講座	LGBTQ+の当事者やNPO法人の方を講師とした座学	2回	LGBTQ+当事者の実体験からケーススタディ、グループワーク。また子どもの人権を、西中学校ですごろくを用いて学んだ。	参加者は昨年より増えたものの、高齢者のみ。子どもの人権の方は、こどもと公民館利用者との絡みをどう作っていくのか、公民館講座として行う意義も考えていく必要がある。
南花台	郷土・伝統・文化	南花台に、女子サッカーチームのスペランツァ大阪のホームスタジアムが建設される。チームの認知度を上げ、地域で応援する体制づくりを目指す	スペランツァ大阪を応援しよう	チームの紹介、選手との交流、試合観戦	2回	1回目は映像を見ながら、選手関係者による試合解説。2回目はJ-GREEN堺スタジアムで試合観戦。	講座をきっかけとしたファン作りは出来てきたが、まだまだごく一部である。より応援したくなる内容の検討が必要。

【参考】公民館主催事業への評価の導入

1. 目的

公民館の社会教育機能を高め、よりよい主催事業を企画、実施するため、特定の公民館主催事業に対して、定性的な（数字では表せない本質的なものを言葉で表すような）評価基準を設ける。

2. 基本方針

公民館主催事業は、個人化された（個人的ニーズによる）学習から、地域社会の要請（ソーシャル・ニーズ）による学習へと軸足を移し、企画段階から評価基準を意識して企画、実施する。



公民館主催事業が目指す取り組み

- ①社会教育課題の学習の推進
- ②地域課題の解決に寄与する人材発掘と育成
- ③学習や体験を通じた仲間づくり

3. 評価基準

①社会教育課題の特定

→社会や地域のどのような現象を社会教育課題に位置付けて企画に反映するか。

②課題解決方法

→課題に対し、誰が、誰に、どのように、何を、どうすることを意図するか。

③行動変容・人材発掘と育成方法

→参加者の行動や意識をどのように変化させ、どのような人材を育てるか。

④事後の普及啓発・仲間づくり

→行動につなげるため、グループ化する等どのような支援や関わりができるか。

4. 評価のPDCAサイクル

(P) 各公民館は、評価基準を意識して、次年度の主催講座等の【事業計画】を企画する。



(D) 公民館運営審議会は、事業計画に対して助言を行い、各公民館が事業計画を遂行する。



(C) 各公民館は、主催講座等の実績について、評価基準に基づく【自己評価】を行う。



(C) 公民館運営審議会は、事業実績をふまえ、評価基準に基づく【客観的評価】を行う。



(A) 各公民館の地区運営委員会及び利用団体は、各館の事業計画の実現に協力する。

【参考】社会教育課題とは

(1) 【重点】人権

様々な人権問題を認識し、講座の中で自分と他者が話し合っただけで考えを認め合う。

(例) ジェンダー、同和、障がい者、在日外国人

(2) 【重点】コミュニティづくり

市民企画の講座を増やすなど、市民が地域の課題について考え、自ら行動する機会を創出する。また、小中学校・高校・大学や専門学校との連携を積極的に行うことで、子供の居場所づくりや世代間交流を図り、公民館講座を通して新たなコミュニティを生み出す。

(例) 世代間交流、学校連携、市民企画講座 (例. R4 加賀田公民館の「わくわく会議」)

(3) 【重点】国際理解・多文化共生

他国を尊重し、地球規模の課題を理解することで多様な価値観を持った人々との共生社会の認識を広げる。取り上げる国は各公民館の地域特性に合わせる。

(例) 異文化交流、国際平和、万博

(4) 【重点】情報・テクノロジー

公民館設置のタブレットを使用し、インターネットを活用した講座を促進する。また、有害情報の氾濫など情報ネットワークによる諸問題への認識を高める。

(例) 動画作成、オンライン配信講座、ZOOM 活用、インターネットモラル

(5) 健康

老若男女が心身ともに健康に、いきがいとなる文化活動やスポーツ活動を行うことができる状態を目指す。モルック等の幅広い年代が楽しむことができるスポーツを積極的に取り入れていく。また、ボランティア養成や学校・地域イベントなど、学んだことを地域で活かす機会を創出する。

(例) 認知症予防、体操、ニュースポーツ、ボランティア養成

(6) 家庭教育・健全育成

親同士のネットワークを作り、親の身体的・精神的負担を軽減する。一方でその役割や責任の自覚を促す。また、思いやりの心、命を尊ぶ心、ルールを守る心、勇気をもって行動する心など、いわゆる豊かな心や社会性を育む。青少年の個性と独創性、自らを律し自己責任を持ち、自立の精神を有する意識を育む。

(例) こども教室、親学習、野外活動、学校連携等の保護者対象講座、進路相談会

(7) 環境

豊かな自然環境を守り育てるために、資源の循環や環境負荷の低減に関する理解を深める。

(例) リサイクル、フードドライブ、ごみ問題、エネルギー問題、節電対策、水

(8) 郷土・伝統・文化

河内長野の自然豊かな郷土と多くの文化遺産の魅力を知ること、青少年をはじめ市民の郷土愛を育む。また、地元企業との連携などで産業の活性化につなげる。

(例) まち歩き、河内長野版歳時記活用、地場産業、職業体験、郷土の魅力発見

(9) 安全・安心

安全に安心して市民が生活できるように、参加者同士の体験活動などを通して、必要な知識や行動についての理解を深める。

(例) 感染症、避難所体験、防災ゲーム、大規模地震対策

令和6年度くろまる塾本部講座の実績及びアンケートから見る考察

資料2

	ジャンル	開催日	タイトル	講師依頼先	参加者数 (人)	満足度	年齢層 70歳代以上 の割合	主な感想	分析
①	人権	4月11日(木)	「大阪公立大学連携講座」 アンパンマンの正義論・普遍的な 「倫理」を求めて	大阪公立大学 現代システム 科学研究科 准教授 吉田直 哉	26人	24%	55%	良く知っているお話が、作者のどのよう な考えや体験がもとになって、作り出さ れたのか良く解って面白く聞かせていた だきました。	大阪公立大学の出前講座の中から、知名度 の有るアンパンマンの講座を依頼したが、 参加者数が少なかった。理系で理解しやす そうな講座を実施。
②	金融	5月11日(土)	「将来の資金準備について」 60歳以上の上手な資産形成セミ ナー	ソニー生命保険 石川祐二 、公認会計士・税理士 沖野 佳美、司法書士 若宮香	19人	13%	32%	大枠を解りやすく説明していただいた。 反面具体性をカットしてバランスを保っ ていたため物足りないものとなった。 土曜日の午後で参加しやすかった。	全体的に高齢者の参加が多かった、満足度 は低い。 投資は、必要と解ってはいても、受講者の 年齢を考えると厳しいものがある。
③	金融	5月18日(土)	「将来の資金準備について」 知らなきゃ損する相続対策	ソニー生命保険 石川祐二 、公認会計士・税理士 沖野 佳美、司法書士 若宮香	20人	7%	77%	相続について知識がなく、これから勉強 していこうと思いました。 節税対策が具体的にわかりました。	
④	ボランティア	7月27日(土)	「かわちながの魅力発信ボランティ ア養成講座」 SNSの基礎知識と効果的な活用事 例の紹介について	Yahooニュースエキスパー ト おぐし みき	16人	20%	15%	実際にSNSを使っている立場から生々 しいお話が聞けた。	実際にSNSを使って情報発信をしている方 に話をしていただいた。 SNSの基礎知識から効果的な活用事例の紹 介や効果的な投稿のポイントなど詳細な説 明をしていただいた。
⑤	ボランティア	9月7日(土)	「かわちながの魅力発信ボランティ ア養成講座」 情報発信をして得られる効果	(株)ルシェア代表 池垣 佐世 子	11人	50%	50%	同じ内容を伝えるにしても何を重視する かで完成の形が違ってることがよく理 解できました。 SNSは、遠いと思っていたが身近に感 じられた。想像するような楽しさを味わ えた。	
⑥	歴史・文化財	9月4日(水)	「すごいぞレプリカ」 観たくなる奈良の仏像	奈良県立大学 地域創造学部 教授 山田 修	47人	34%	76%	仏像の製造工程、歴史等大変解り易い説 明で、感謝。 具体的な作り方、作者による像の表現の 違いなど時代背景による違いも解った。	仏像をレプリカで取り上げ解りやすく説明 していただいた。 年齢層は高かったが、新たな分野の講座で あったので、満足度は高かった。
⑦	歴史・文化財	9月11日(水)	「すごいぞレプリカ」 仏像の模造とレプリカ	奈良県立大学 地域創造学部 教授 山田 修	31人	48%	78%	「まねるは学ぶ」という部分、特に良 かったです。全く同じ形、技法、材料を 目指す修復、文化財の修復でとても大事 だとわかりました。	
⑧	歴史・文化財	10月25日 (金)	「漢字研究の巨星 白川静の世界～ 7～」 人体の表現～横を向く人、前を向く 人～	立命館大学白川静記念東洋文 字文化研究所 後藤文男	27人	59%	82%	初めて聞く漢字のなりたちがとても楽し かったです。 毎回楽しみにして参加しています。いつ もどんな話しが聞けるのかワクワクしま す。 あっという間の1時間半です。	満足度の評価は高い。 この回で8年連続の開催となっており。受 講者は固定化しており年齢層が高い。 参加者が少なくなっている。
⑨	歴史・文化財	11月1日(金)	「漢字研究の巨星 白川静の世界～ 7～」 人体の表現～ひざまづく人～	立命館大学白川静記念東洋文 字文化研究所 後藤文男	24人	59%	86%	熱の入った解説で、納得のいく説明ばか りでした。 漢字の由来、意味がよく理解できまし た。 知らなかった事柄が腑に落ちた時の快 感。	

令和6年度くろまる塾本部講座の実績及びアンケートから見る考察

資料2

	ジャンル	開催日	タイトル	講師依頼先	参加者数 (人)	満足度	年齢層 70歳代以上 の割合	主な感想	分析
⑩	歴史・文化財	2月2日(日)	「古代都市平城京の疫病とまじない」 古代都市平城京の疫病対策	奈良文化財研究所 神野恵	29人	29%	78%	研究の深さと歴史を絡めて、とても勉強になりました。 資料は、しっかりと、丁寧であり、資料に基づき話していただいたのでとてもよかった。	古代都市平城京の研究を通して疫病とまじないについて講義をしていただいた。資料がしっかりと丁寧にまとめていただいております。アンケート結果での評価は高かった。満足度が低いのが残念であった。
⑪	歴史・文化財	3月2日(日)	「古代都市平城京の疫病とまじない」 古代の祟り、祈り、まじない	奈良文化財研究所 神野恵	28人	30%	72%	非常に興味深かったです。普段あまり知らない祟りの話は特に面白かったです。古代の祟り、祈り、まじないについて発掘調査事例から、わかりやすく説明していただき理解しやすかったです。	
⑫	医療・健康	6月20日(木)	「大阪南医療センター連携講座」 緩和ケアって何なん?	大阪南医療センター 緩和ケア内科医長 川村 知裕	56人	27%	69%	緩和ケアのイメージは、終末医療だと思っていた。講座を聞いて考えが変わり今後の参考になった。	参加者が多く関心の高い講座であった。講座の内容もとても分かりやすいとのアンケートが多かった。
⑬	医療・健康	10月8日(火)	「大阪南医療センター連携講座」 膵がんの治療成績向上を目指して	大阪南医療センター 外科医長 廣川 文鋭(ひろかわふみとし)	29人	41%	38%	膵がんの恐ろしさ、良く解りました。映像を示して大変解り易く説明して頂き、よく理解できました。膵がんの現状、検診の方法などよく理解できました。	参加者が多く関心の高い講座であった。膵がん治療の現状について解りやすく説明していただいた。
⑭	医療・健康	2月8日(土)	「大阪南医療センター連携講座」 がんって何だろう～肺がんの診断・治療・予防から～	大阪南医療センター 腫瘍内科医長 工藤 慶太	34人	55%	68%	薬物療法の話、治療の進歩について聞くことが出来た。最新の先進医療が良く解った。がんのなりたちから治療まで解りやすかった。少し不安が取れた気がする。	参加者が多く関心の高い講座であった。講座の内容もとても分かりやすいとのアンケートが多かった。
⑮	医療・健康	12月7日(土)	「河内長野市医師会連携講座」 ご近所ドクターに学ぶ～メタボが気になる方へ～	河内長野医師会医師 南河内おか病院 内科部長 幸原 晴彦	13人	18%	82%	幅広い話題の話が聞けました。メタボは、現代人の関心事です。裏話を聞くことが出来て、面白かったです。	ボランティア企画の講座であったが、参加者が少なくて残念であった。高齢者の受講が多かった。満足度が18%と低いものとなった。
⑯	医療・健康	11月30日(土)	「近畿大学連携講座」 鳥瞰東洋(末科学&科学)の智慧で心身アンチエイジング!	近畿大学 社会連携推進センター 講師 日置智津子	46人	26%	62%	漢方のおもしろかったです、3回くらいに分けて開催してほしかったです。気の流れのコントロールや東洋医学、漢方薬について良さを知ることができた。	東洋医学の講座で人気が高かった。高齢者の受講が多かった。内容が難しかったためか満足度は低いものとなった。
⑰	多文化共生	9月5日(木)	「大阪女学院連携講座」 韓国ドラマから読み解く韓国文化の知識習得	大阪女学院大学・短期大学 韓国語専任講師 金姫淑(キム ヒスク)	54人	42%	44%	韓国ドラマは好きですが、文化的に違うなと感じる事がたまにあったが、それがこういう背景が有るんだ、とかこれは韓国では実際にはない、といった話もあり、とても興味深く楽しい講座でした。	ボランティア企画の講座で、人気の韓国ドラマ関連ということで、参加者が多かった。講師のお話も楽しく、満足度の高い講座であった。
⑱	健全育成	8月10日(土)	親子で漢字の成り立ちを学ぶ～河内長野漢字探検隊～ 花の文化園で出会える漢字の探検	立命館大学白川静記念東洋文字文化研究所 久保 裕之	7人	40%	0%	楽しく漢字の勉強ができた。色々な問題が有って楽しかった。子どもが漢字に興味があり、昔の漢字なども教えていただき良かったです。	花の文化園で出会える漢字をテーマにクイズラリー形式で実施。8月という事もあり、猛暑で子どもたちには厳しいものとなった。内容を見直して参加者しやすいものになりたい。

令和6年度くろまる塾本部講座の実績及びアンケートから見る考察

資料2

	ジャンル	開催日	タイトル	講師依頼先	参加者数 (人)	満足度	年齢層 70歳代以 上の割合	主な感想	分析
⑱	健全育成	6回シリーズ (6/9・22、 7/13・20、 8/10・24)	「基礎から学ぶ ロボットプログラ ミング講座」～RoboRAVE大阪大 会に参加を目指そう～	(株)ダイセン電子工業 代 表取締役 田中 宏明	延べ 114人	65%	0%	プログラミングについてあまり知らな かったけどいろいろな事を知れたり、教 えてもらって楽しかった。	初めての子どもプログラミング講座を開催 したところ、多数の応募があり、抽選と なった。小学3年生以上の参加としていたた め、難しい内容も有ったが全員が楽しみな がら取り組んでいた。とてもいい講座と なった。
⑳	医療・健康	12月6日(金)	「音楽レクリエーション健康講座」 元気に学ぼう「オトフレ講座」 ～いつまでも動ける体を維持するた めに～	JMRECマイスター 健康レ クリエーション指導士 橋 千鶴	24人	50%	72%	実際に身体を動かしながらの体験は、楽 しく参考になった。 身体を動かして動作を変えながら運動す るのは、脳の活性化をしているように感 じた。	オトフレ講座で身体を使っの軽体操、音 楽、手遊びなどを取り入れた楽しい講座で あった。 参加者が少なかったのが残念ではあった が、満足度は高かった。
㉑	文化	1月29日(水)	「大阪芸術大学連携講座」 放送とことば「誰もが使うことば。 その魅力とフレイル予防」	大阪芸術大学 放送学科教授 林 真一郎	23人	22%	84%	「ことば」のお話し、とても楽しく学び のある内容でした。 ことばが、さすがに聞き取りやすかった です。日本語の話をもっと聞きたかった です。 経験談を解りやすく楽しく話してくだ さったので、あっという間の時間です た。	長く第一線でアナウンサーをされていた方 を講師としてお願いした。 震災の経験談やことばとフレイル予防の事 をお話しただいて良い講座であった。 満足度が低いのが残念であった。
㉒	学位授与式	11月21日 (木)	くろまる塾学位授与式(市長との懇 談形式で授与式を行う)	なし	6人			学士、修士、博士に達した方のモチベ ーションアップを図るため。	今回、市長応接室で学位授与式を開催し た。学長と意見交換の時間を持つことが出 来て学位授与者も満足されていた。

令和6年度くろまる塾本部講座の実績及びアンケートから見る考察

資料2

ジャンル	開催日	タイトル	講師依頼先	参加者数 (人)	満足度	年齢層 70歳代以上 の割合	主な感想	分析
------	-----	------	-------	-------------	-----	----------------------	------	----

※満足度は、アンケートの「大変満足」の割合です。

全体を通して

- 全体的に70歳以上の参加者が多い。70歳以上の割合が50%を超えた講座は、26講座中15講座であり、もっと多様な年齢層に参加していただける講座を開催する必要がある。
- 講座開催日を、土曜日・日曜日にして、参加者数の増加を図ったが、平均して1講座当たり26人と前年度と比べて減少した。
- 子どもロボットプログラミング講座は、申込みが多数で抽選となった。ほぼ全員が全回参加であり、継続したプログラミング講座の受講希望があった。内容的には難しいところがあったが、みんなで教えあって楽しそうであった。
- 医療連携講座は、受講者が多く人気の講座である。歴史講座と合わせて今後も継続していきたい。

令和7年度の文化財関連事業について

1. 大阪・関西万博 大阪ウィークへの出展（中世が「好き。」歴史でつながる河内長野）
5月9日（金）～11日（日）



2. 滝畑ふるさと文化財の森センター民家棟（市指定文化財旧梶谷家住宅）屋根修理に伴うイベント

- 体験「縄ない」6月8日（日）
見学会「差し茅」6月15日（日）
体験「とま葺き」6月28日（土）・29日（日）
見学会「棟包み」7月6日（日）
体験「とま葺き」7月27日（日）
見学会「刈り込み」7月21日（月・祝）
体験「とま葺き」7月27日（日）



3. 「歴史発見 2025」（大阪府・富田林市・大阪狭山市・河内長野市の合同展）

前期：大阪府立狭山池博物館

5月21日（水）～7月1日（火）

後期：河内長野市立ふるさと歴史学習館

7月3日（木）～8月3日（日）

4. 河内長野市文化財保存活用地域計画策定に伴う事業

- (1) パブリックコメントの実施

6月5日（木）～7月3日（木）

- (2) ワークショップ

6月28日（土）

5. 市内高等学校の探究学習の支援

大阪暁光高等学校 5月30日（金）

府立長野高等学校 7月10日(木)

6. 今後のイベント

- ・ EXPO2025 大阪 ウィーク夏 (自分が生きるまちが「好き」自然でつながる河内長野)
出演 7月27日(日) 10:00~20:00
- ・ 夏休み親子考古学フェア開催 8月9日(土) 10:00~15:00
- ・ 『EXPO 2025』 <世界遊び・学びサミット>
出展 8月10日(日) 9:00~21:00
- ・ ふるさと歴史学習館 夏のワークショップ 子供のためのジオラマ作り
開催 8月17日(日) 午後
- ・ ふるさと歴史学習館 夏のワークショップ 大人のためのジオラマ作り
開催 8月24日(日) 午後
- ・ 歳時記上映会
開催 8月24日(日) 13:00~18:30
場所 キックス イベントホール
- ・ ふるさと歴史学習館 常設展示の展示替え
9月16日(火)から10月3日(金)まで施設を休館し、常設展示を
日本遺産仕様の展示にリニューアルする。